さんにち NIE ワークシート

山梨日日新聞

年　　組　名前：

昇仙峡にスマートごみ箱

県内初 蓄積 IOTで把握

日本観光振興協会、日本たばこ産業、旅行大手のJTBは18日、IoT（モノのインターネット）技術を生かしごみ削減などにつなげるIoTスマートごみ箱「SmaGO」を甲府市猪狩町の昇仙峡エリアに県内で初めて設置した。ごみの蓄積状態をインターネット経由のリアルタイムで把握でき、ごみが一定量に達すると自動圧縮することで、収集作業の効率化や二酸化炭素（CO_2）の排出量削減などが期待できるという。協会は12月17日までの施行期間で運用データを収集し、全国の観光地への設置をめざす。〈三枝大悟〉

甲府・昇仙峡に設置されたスマートごみ箱「SmaGO」

スマートごみ箱は、可燃ごみ用とペットボトルや空き缶など用の2台で1セット。昇仙峡ロープウェイ乗り場、山頂、仙娥滝の3カ所に置かれた。1台の大きさは、高さ1メートル26、奥行き68センチ、幅64センチ。湯村温泉旅館協同組合や昇仙峡観光協会などで組織する甲府観光開発が管理運営する。太陽光パネルで給電、ごみが一定の蓄積量に達すると回収を求める通知が自動送信される。ごみ箱のふたの開閉回数などが記録され、利用者数も分かるという。

可燃ごみは設定した容量までたまると、自動でごみを圧縮。蓄積量は圧縮しなければ120トンだが、圧縮により最大600トンまで蓄積できる。

同協会などによると、スマートごみ箱は全国の市街地で設置されているが、観光地では進んでいない。国指定の特別名勝の昇仙峡は日本遺産にも認定され知名度があり、紅葉シーズンは、日頃の1日1000人程度の観光客が10～15倍に急増することなどから設置場所に選んだ。

昇仙峡ロープウェイ乗り場で行われた式典で、協会の皆見薫常務理事や甲府市の樋口雄一市長が、スマートごみ箱が観光地の環境美化につながるよう期待と決意を込め、あいさつした。

QRコードから動画を見られます

（2023年10月19日付 山梨日日新聞19面）

問1

IOT（モノのインターネット）スマートごみ箱を設置することで、どのようなことが期待できますか。

問2

IOTスマートごみ箱は、昇仙峡エリアのどこに設置しましたか。3カ所答えてください。

・　　・　　・

問3

IOTスマートごみ箱には、どのような機能がありますか。

教育目的以外の無断転載 複製および頒布は禁止します
Copyright © 2023 山梨日日新聞社 THE YAMANASHI NICHINICHI SHIMBUN.